



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2007.12

No. 284

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



エトピリカに会いに齒舞・色丹島沖へ

長野誠治(さいたま市)

◇ はじめに

鳥見を始めて間もない頃、フィールドガイドを見ていると、「まるで“不思議の国のアリス”の世界から抜け出してきたような」イラストに目が釘付けになりました。その鳥の名前はエトピリカ。アイヌ語のエト(嘴)ピリカ(美しい)が語源で、紅を差しているように見えることから和名は花魁鳥(おいらんどり)と呼ばれることも知りました。その後も写真集を見るにつれて、「エトピリカに会いたい」という気持ちが高まるばかりでした。

実物を見るには、①葛西臨海公園等の水族館に行く、②北海道霧多布のアゼチ岬から 800メートル先の、エトピリカが息息する小島を観察する、③船をチャーターしてこの小島周辺を巡回する、④アラスカやカナダ西海岸など海外へ行って見る、などの方法があります。しかし、自然界で生きていて、比較的近距离から観察でき、予算面からも実現可能性で、かつ日本近海で……という条件に合致するものは見つからず、年月だけが過ぎていきました。

今春になって、根室から船をチャーターして北方四島周辺海域で海鳥を見るツアーがあることを知り、早速夏休みをとって参加することにしました。

◇エトピリカに出会う

7月29日朝、曇天の根室港に参加者が集合しツアー・チャーター船、ロシア語でハマナスを意味するロサルゴサ号(486トン)に乗り込みました。この船は、元々は水産学校の練習船でしたが、現在は北方四島のビザなし墓参の渡航船として活躍しているそうです。

根室港を出発すると間もなくフルマカモメが出迎えてくれ、天候も徐々に良くなってきました。納沙布岬に近づくと、左手手前に貝殻島の傾きかけた古い灯台とその奥には水晶島が見えてきました。ロシアが実効支配する領域で建物はほとんど無く、監視塔が数本我々をじっと見張っているようで、荒涼とした風景に緊張感を覚えました。

齒舞・色丹島の南沖を東に進むにつれて海



フルマカモメ

鳥の数も増え始め、ハシボソミズナギドリやクロアシアホウドリ、コアホウドリなどが船の近くを飛び回ります。昼食を済ませて、午後の観察をしていると、船尾から船首に向かって翼をパタパタとせわしなく羽ばたかせるウミスズメに体型の良く似た鳥を確認。双眼鏡を覗くとあの特徴のある顔と嘴のエトピリカです。船の周りを数回飛び回ってくれてサービス満点、案外人を恐れないうように思われました。間もなく、船上では万歳の声が響き渡りました。

その後も、船の周辺の水面を親子で浮いている姿や、ペアで船上を飛び回るエトピリカを翌日も含めると30回以上観察することができました。



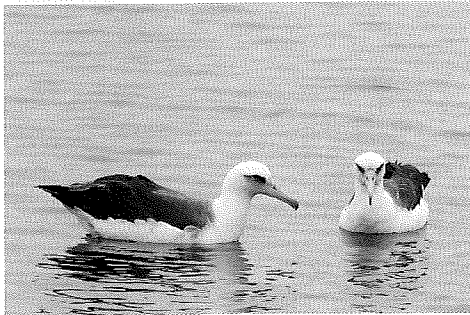
エトピリカ

◇新たな出会いと驚き

ほかにも印象深かったことは多くありますが、そのうちの四つほどをご紹介します。

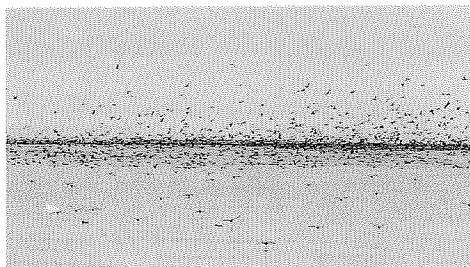
一つめは、公園の池のカモのように人懐っこい姿の海鳥たち。29日の夜は、北緯43度41分、東経147度15分の択捉島と色丹島の間の

南の沖に停泊しました。翌朝、日の出とともにサイドデッキにでてみると、船の周りには(コンパクトデジタルカメラで十分撮影できるほどの近距離に)フルマカモメやコアホウドリ、クロアシホウドリが100羽以上プカプカ浮いているではありませんか！



コアホウドリ

二つめは、ハシボソミズナギドリの大群。2日目の午前中、はるか水平線に黒い塊が出現しました。徐々に近づいていくと、雲霞の如く沸き立つ鳥の群れであることが分かりました。数万羽のハシボソミズナギドリがエサとなる魚群を求めて集まっていて、スケールの大きさにビックリしました。



ハシボソミズナギドリの群れ

三つめは、ツノメドリとの遭遇。2日目、船の横に成鳥と幼鳥が浮いているのを確認。胸から腹にかけて白さが目立ち、エトビリカと違って優しい顔つきが印象的でした。今回で4回目となるツアーですが、ツノメドリが出現したのは初めてとのこと、思いも寄らない出会いにうれしさが込み上げてきました。

四つめは、トウゾクカモメがオオセグロカモメを襲ってエサを奪い取るシーン。2日目の夕方、帰港するため根室港に向かっていた時、2羽のトウゾクカモメがオオセグロカモメを追ってエサの奪取に成功。船の横近くで演じられたので、



じっくり観察できました。

カマイルカのWジャンプや、船に沿って泳ぐオットセイ・イシイルカ・クジラのジャンプなども印象的でした。

◇おわりに

北方海域に多くの海鳥や哺乳類が生息できる背景には、親潮に乗ってやってくるプランクトンや小魚などの豊かな海の資源があるのでしょう。日露間で漁業をめぐる争いが絶えない理由もここにあるのだと思います。

今回のツアーでの失敗談。1日目の夕方、観察終了後、洗面所で顔を洗うとビリビリと痛みが走ります。ダウンジャケットを羽織るほど寒く、日差しの強さを感じなかったのですが、どうやら快晴の下で強力な紫外線と海風に晒され続けた影響だったようです。帰宅すると顔の皮膚がボロボロと剥け始めました。休暇明けに出社する頃には、往年の冒険家・故植村直己氏のような日焼け顔に変身、会社の同僚から会う人ごとに「どうしたの？」と尋ねられ、社外の訪問者も苦笑する始末。日焼け予防の大切さも実感しました。

(その他筆者が確認できた鳥)

ハイロミズナギドリ、ハイロウミツバメ、コシジロウミツバメ、ウミウ、ヒメウ、ハイロヒレアシシギ、アカエリヒレアシシギ、ウミネコ、アジサシ、ウミガラス、ウミスズメ、カンムリウミスズメ、ウトウ、アマツバメ

(参考文献)

高野伸二 日本の野鳥 1989 (財)日本野鳥の会
片岡義廣 エトビリカ 1998 北海道新聞社(本文の注部分も引用)

吉井正他 世界鳥名事典 2005 三省堂

はじめに

本調査は表1により実施された。本稿では、今回の注目種、コアジサシを報告する。

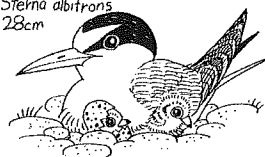
現状

本種は、環境省では絶滅危惧II類、県では絶滅危惧I B類と「埼玉県レッドリスト2007動物編」で規定されている。県内では本来、荒川や利根川など河川中流の河原の砂礫地でコロニーを造り繁殖するが、現在この繁殖適地が、河川敷の樹林化等で激減している。1985年から1990年の第1次県内野鳥分布調査では図のメッシュで3メッシュ、今回は8メッシュ(図)、コアジサシはかろうじてコロニーを確保している現状だ。

おわりに

コアジサシは、第1次調査と比べ、かろうじて繁殖地を開拓し、生息している事が判明した。
(小荷田行男)

コアジサシ
Sterna albifrons
28cm



(富士鷹なすび)

表1 調査概要

調査期間	2007年5月10日～7月10日
調査方法	調査はがきによるアンケートほか
調査はがき	58通
調査メッシュ	65メッシュ(3次メッシュ)ユ

表2 注目種コアジサシの調査

調査はがき数	7通
コアジサシ存在メッシュ	8メッシュ

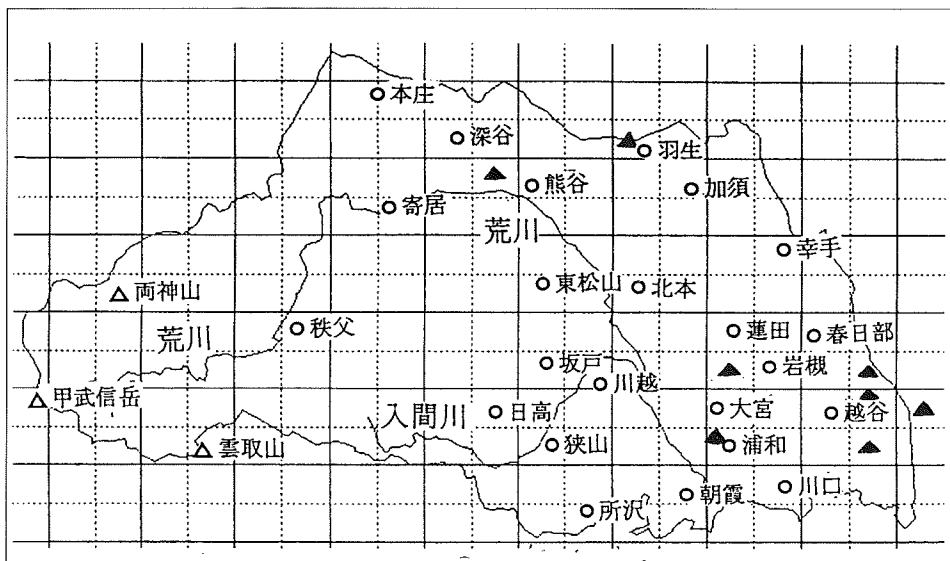


図 コアジサシの分布(▲)

ごめんなさいコーナー

先月号『サンズイのトリと鳥』では、執筆者「石光 章」氏の名前にサンズイならぬサンズクリをつけてしまいました。訂正し、お詫びいたします。

県内のシラコバト生息情報をお知らせ下さい!

近年、県内でシラコバトを観察する機会が急減していませんか? 2006年の秋に開催された関東ブロック協議会(日本野鳥の会の関東各支部が集まる会議)で、シラコバト減少に注目した各支部が、調査組織の立ち上げを提案して、2007年9月の関東ブロック協議会で共同調査が決定されました。

本調査は茨城県、群馬、栃木県、千葉県、東京、埼玉県の各支部で構成し、幹事は当支部が担当します。財団本部自然保護室と協同で作成した「シラコバト調査マニュアル」に沿って、ラインセンサスとスポットセンサスで、シラコバトの分布と個体数を調査します。調査期間は2008年の繁殖期と2008/2009年の越冬期の2回とします。成果は2011年発行の財団本部の野外鳥類学論文集「Strix」に発表する予定です。

そこで、本格的な調査を前にして、2007年12月から2008年3月までの間に、シラコバト情報を収集いたします。シラコバトを目撃された方は、電子メール、FAXまたはハガキで情報を送って下さい。必要な情報は、①観察年月日、②観察時間、③観察場所(番地や目印など出来るだけ詳しく)、④個体数、⑤付近の環境(田畑、住宅地、商業地、工業地、河川敷など)です。この期間以前の情報でもかまいませんのでお待ちしております。

参考のために2000年~2001年に行った埼玉県支部の調査による観察報告地メッシュ図を掲載致します。現在では、県西北の熊谷市・行田市から深谷市・妻沼方向に、北方向は渡良瀬遊水池北側栃木県小山市、渡良瀬川流域佐野市から北に拡散していると思われます。

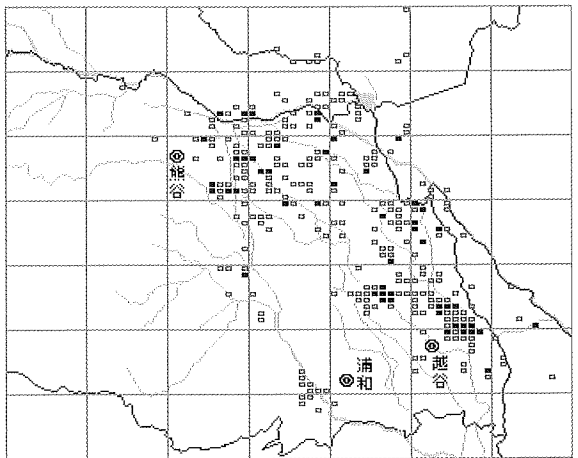
今回の調査では、1/25,000地形図を1/4に分けた広さを1エリア(東西5.6km、南北4.6km)として調査します。掲載のメッシュ図では61エリアあり、埼玉県内では46エリアとなります。

並行して、調査ボランティアの募集も行っています。経歴は問いませんのでお手伝いして頂ける方はシラコバト情報と同じ方法でお知らせ下さい。ラインセンサスなどの調査方

法は、2008年春に講習会を実施する予定です。埼玉県だけでも46エリアを担当するのですから出来る限り大勢の方のご協力をお願い致します。

(担当:小荷田研究部長、橋口普及部長)
情報の送り先:〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4-26-8-107 日本野鳥の会埼玉県支部
FAX:048-825-0460

e-mail: , 橋口



2000~2001年シラコバト観察地メッシュ図

凡例 □:10羽未満の報告があったメッシュ
■:10羽以上の報告があったメッシュ

冬鳥調査にもご協力ください

例年通り、冬鳥調査の期間は12月1日から来年1月31日までの間です。あなたが定めた県内の1km四方の観察地でその期間に観察した野鳥を、1月号に同封する調査はがき裏面の報告欄にご記入ください。

調査はがき表面の下半分は、地域を限らない注目種調査。今回の対象は、こちらもシラコバトです。調査期間中にシラコバトを見つけたら、「発見場所」などの欄にご記入ください。このはがきによる情報は、関東ブロック共同のシラコバト調査の基礎データと、県内野鳥分布調査のデータの両方に活用します。

冬鳥調査または注目種調査、どちらか一方でもご記入いただけたら、申し訳ありませんが、切手を貼ってご投函ください。県内の野鳥の動向の一端を知るための調査です。ご協力をお願いします。(研究部・小荷田行男)



野鳥情報

川越市古谷本郷 ◇8月1日、用水路土手でオオジシギ1羽、他にもジシギ類1羽が飛翔。これもおそらくオオジシギ(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区加倉 ◇8月4日、自宅近くで朝からチョウゲンボウが鳴いていた(藤原寛治)。

鴻巣市広田 ◇8月17日、一面の稲の上を400羽～500羽のショウドウツバメが乱舞！ チョウゲンボウ、シラコバトも(鈴木紀雄)。

春日部市倉常 ◇8月20日、休耕田でケリ2羽、ムナグロ15羽、クサシギ2羽、トウネン2羽、タカブシギ1羽、アオアシシギ1羽、コチドリ約30羽。8月22日、同所でケリ4羽、ムナグロ16羽、タカブシギ1羽、イカルチドリ1羽、コチドリなど。8月27日、休耕田でケリ14羽、ムナグロ15羽、キアシシギ3羽、タカブシギ5羽など。ケリの多さに驚く。8月28日、ケリ4羽、ムナグロ20羽、タシギ2羽、チュウジシギ? 1羽、タカブシギ7羽、キアシシギ5羽、イソシギ2羽など。8月29日、ムナグロ13羽、タカブシギ10羽、キアシシギ6羽、オジロトウネン1羽など(鈴木紀雄)。

春日部市立野 ◇8月27日、休耕田でキアシシギ2羽、クサシギ2羽など。8月29日、クサシギ3羽、イソシギ2羽など(鈴木紀雄)。

春日部市増田新田 ◇8月23日午前9時57分、午後12時25分、午後5時10分、カワセミ♂1羽 自宅近くの安之堀川西岸、コンクリート護岸上、ほぼ同じ位置に静止。午前9時57分、チュウサギ1羽、安之堀川の中、倒れかかったヨシとマコモの上を歩きながら虫を探しつつ啄む(石川敏男)。

春日部市一ノ割 ◇8月24日午後4時55分頃、西部浄水場南方、安之堀川東側の休耕田でコチドリ13羽、キリアイ1羽を目撃。田んぼに湧く小さい虫を啄んでいた。午後5時30分頃、イソシギ1羽飛来する。盛んに虫を食す。午後6時3分頃、コチドリ15羽に増加(石川敏男)。

春日部市大沼運動公園 ◇8月25日午前6時30分頃、公園北東端の信号付近で、「ポッポー、ポッポー」と鳴くシラコバト1羽を確認。今や、市内に残る数少ない野鳥となつてしまった(石川敏男)。

春日部市大沼4丁目 ◇8月25日午前6時40分頃、マンション建設予定地で造成中の元郵政省グラウンド跡地。水溜りができており、コチドリ13～15羽が休息。一ノ割の休耕田と当地間を往来していると思われる。マンション建設工事が本格的に始まるまでの東の間の休息地となっていた(石川敏男)。

さいたま市緑区埼玉スタジアム2002調整池 ◇8月18日、クサシギ4羽。スタジアムにチョウゲンボウ3羽、カラスが近づくと追ひ払っていた(鈴木紀雄)。

松伏町まつし緑の丘公園 ◇8月30日午後3時、池にカルガモ200羽以上、たえず20羽くらいの群が出入りしていた。こんなに多くのカルガモの群は初めて。池の周りにはダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、アオサギが合わせて100羽くらい、水辺のアシの根元にはゴイサギが50羽くらい潜んでいた。公園東側の田んぼで、50羽くらいのサギ類が乱舞し、壮観であった(佐藤宏)。

さいたま市北区日進町1丁目 ◇8月31日、職場の芝生の上にツツドリ(赤色型)1羽が落鳥。体重138グラム。首の羽毛が部分的に取れてそばに散らばっていて、頭の下には少し出血した跡があった。場所と状況から見て、窓ガラスなどへの衝突ではないように思われた。猛禽が捕らえて食事をしようというときに誰かが通りかかって放棄されたのか、などと想像してみたが、真実は不明。それにしても、ここで8月に見たのは初めてののような気がする(森本國夫)。

表紙の写真

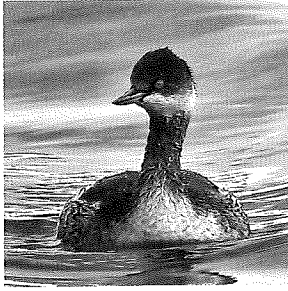
カモ目カモ科マガモ属コガモ

久しぶりに見沼田んぼの芝川へ。三室地区定例探鳥会で歩くコースの少し上流。アシ原、泥干潟、少々悪臭。昔ながらの芝川の雰囲気の中、バン、タシギ、コガモなどが、昼寝、時々水浴び。

海老原美夫(さいたま市)



行事案内



ハジロカイツブリ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月1日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前、または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35→栗橋7:55→柳生8:05着。またはJR宇都宮線大宮7:07→栗橋7:40着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、中里、植平、小林(正)

見どころ：野鳥は間違ってもむこうから近づいて来ません。どのくらいの距離を境とするのか、観察しながら感じるのも、ひとつの触れ合いです。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：昨年の今頃はアカウソの話題で持ちきりでした。今年はどんな鳥たち

が来ているでしょうか。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：12月2日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅行き8:31発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：鳥見に良い季節です。ツグミやジョウビタキ、オオジュリン、冬の小鳥たちとの出会いを楽しみましょう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月8日(土)

集合：午前9時30分西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)

見どころ：冬の水鳥たちが湖面をにぎわせてくれる季節になりました。狭山湖の代表・カンムリカイツブリは何羽見られるでしょうか？

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居
8:49 発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、後藤、倉崎、高
橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、
新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：土手を木枯らしが吹きぬけ、冬
本番。帰ってきた冬鳥たちへ感謝の気
持ちを込めて再会を楽しみましょう。
コハクチョウも皆さんのおいでを待つ
てます。

さいたま市：岩槻文化公園探鳥会

期日：12月9日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅
前、集合後バスで現地へ。または午前
9時、文化公園駐車場(国道16号側)。

交通：東武野田線大宮8:18発柏行き、また
は春日部8:18発大宮行きで岩槻下車。

担当：長野、吉安、玉井、田中、長嶋、石
川、榎本(建)、野村(弘)、小林(善)

見どころ：『しらこぼと』の野鳥情報欄、鈴木紀雄さんの情報でおなじみの探鳥地です。ゆっくりと、比較的近い距離で観察できます。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月12日(水)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前
または午前8時30分、中央エントラン
ス駐車場

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35
→栗橋7:55→柳生8:05着。またはJR
宇都宮線大宮7:04→栗橋7:40着で、
東武日光線乗換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：玉井、大坂、楠見、田中、植平、鬼
塚、藤澤、松村

見どころ：出演者が勢ぞろいして、最高の
舞台。猛禽類、水鳥類だけではなく、
ベニマシコをはじめとする小鳥たちも
期待できます。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月15日(土)

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、立正大
学行き9:18発バスで「滑川中学校」
下車。一つ手前の「森林公園南口」
は通過してください。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：喜多、内藤、佐久間、岡安、藤掛、
青山、後藤、山田(義)、高橋(優)、高
橋(ふ)、藤澤、中村(豊)

見どころ：冬鳥を探しながら、山田大沼ま
で歩きます。鳥合せ後、園内植物園の
ご好意により、冬の植物をご案内しま
す(テーマは未定)。ご希望の方は昼食
をご用意ください。

ご注意：集合時間を早くしました。バスの
ダイヤと下車バス停にご注意ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月15日(土)午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅
東口、集合後バスで現地へ。または午
前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小
菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、
須崎

見どころ：見沼たんぼで鳥見をしないと1
年が終わりません。芝川の守護神プラ
タナスが風に揺れています。人も鳥も
にぎやかな今年最後の三室においでく
ださい。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：12月16日(日)

集合：午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34
→花崎8:41着。花崎駅から下車徒歩約
10分。またはJR宇都宮線大宮8:01→
久喜8:22着で東武伊勢崎線に乗換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所。
担当：青木、中里、宮下、四分一、内田、
栗原、鬼塚、植平、長谷川、小林(正)
見どころ：空にハヤブサ、梢にシメ、アシ
原にオオジュリン、池にオカヨシガモ、
いろいろ楽しめます。

年末講演会

日時：12月23日(日・祝)午後1時開場。
会場：埼玉会館7階B室
交通：浦和駅西口から、県庁通りを県庁に
向かって徒歩約5分、右側。
入場料：100円(中学生以下無料)
第1部：午後1時30分～2時45分
ビデオ『振り返るこの1年』
『シラコバト調査について』など
第2部：午後3時00分～5時00分
講演『江戸の野鳥と自然の話』
松田道生氏(野鳥研究家、日本野鳥の
会評議員)NHK子供電話相談室など、
多数出演しています。
懇親会：携帯()橋口に事前申
込みを。先着25名。会費：5,000円。
会場：未定。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：12月24日(月・振休)
集合：午前9時10分、宇和田公園駐車場。
交通：東武伊勢崎線東武動物公園東口から、
境車庫行き8:45発バスにて「上宇和
田」下車、北方向に徒歩約5分。
担当：中里、宮下、四分一、栗原、植平、
鬼塚、小林(正)
見どころ：山からの鳥たち、遠国からの珍
客たち、身近な留鳥たちに感謝を込め
てこの1年を締めくくりたいと思ひ
ます。暖かくしてお出かけください。

千葉県・銚子港探鳥会(要予約)

期日：平成20年1月26日(土)～27日(日)
集合：26日午前7時50分、JR大宮駅西口、
ソニックシティ大ホール前広場。
交通：往復とも貸し切りバスを利用。
解散：JR大宮駅西口にて27日午後4時頃。

費用：21,000円の予定(バス代、1泊3食
付き宿泊料、保険料など)。過不足の場
合は当日精算。

定員：25名(先着順、**締切12月25日消印**、
当支部会員限定)

申し込み：往復はがき、往信に住所、氏名、
年齢、性別、電話番号、喫煙の有無、
復信に宛名を明記して、橋口長和(〒
)
まで。

担当：橋口、榎本(秀)、玉井、田邊
見どころ：1日目は江戸崎でオオヒシクイ、
波崎港で海鳥を見ます。2日目は銚子
港でカモメ類を見て、犬吠埼にまわり
ミズナギドリ類を探します。

宮城県・伊豆沼探鳥会(要予約)

期日：平成20年2月9日(土)～10日(日)
集合：9日午前8時20分、JR大宮駅構内
新幹線北側改札(乗換え口)前。
交通：東北新幹線を利用。
費用：4万円(1泊3食付き宿泊料、大宮
～現地駅間の往復乗車料金・指定席特
急料金、現地バス代、保険料など)。過
不足の場合当日精算。定員20名、先
着順、当支部会員優先、最少催行15
名。

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、
性別、電話番号、喫煙の有無を明記し
て、榎本秀和(〒
)まで。

担当：榎本(秀)、青木、長野
見どころ：久しぶりの伊豆沼です。万羽の
マガンの夜明けの飛び立ち、幻想的な
夕暮れ時の落雁など、一度は見ておき
たい光景です。
注意：雨天・降雪でも決行。厳寒に留意し
た支度、足揃えでおいでください。

宿泊旅行共通のご注意

- (1)集合地までの往復交通費は各自負担。
- (2)宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



行事報告

5月13日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：48名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ カルガモ コガモ キジ バン コチドリ ムナグロ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 第7回目の共催探鳥会。公園側のPRが行き届いたのか、一般の参加者が18名、37.5%を占めた。スズメ、ムクドリ、キジバト、カワラヒワなど身近な鳥を丁寧に観察する一方、渡り鳥のコガモやムナグロやオオヨシキリを観察。身近な鳥の不思議や渡り鳥の移動距離などについて参加者は興味を持ったようだった。上級者向けのワンポイント・レッスンは雑誌バーダーの記事を基にした「スズメ目を例に換羽の型と範囲、羽衣」。後で若鳥の写真を見せてくれた参加者もいて好評だったようだ。観察種26種はこの時期としてはまずまずといったところ。入会希望者が1名あったことが嬉しかった。(長嶋宏之)

5月13日(日) さいたま市 秋ヶ瀬

参加：17名 天気：曇後晴

自然観察会の春のテーマは、全国と埼玉で絶滅危惧Ⅱ類のチョウジソウ。ピクニックの森南東の草原で1m×1mの方形区を設定。チョウジソウ群落をBraun-Blanquet法で植生調査。植物同定が決まれば被度(占有面積)と群度(個体の占有状況)は解りやすく、方形区一つを調査方法の解説を含め60分弱で終了。結果は表のとおり。本方形区で12種が入り乱れて生育。夏から秋へ本群落の生育状況の移り変わりを想像した。(小荷田行男)

種名	被度・群度
チョウジソウ	4・5
カナムグラ	4・4
クサヨシ	3・3
ウシハコベ	3・2
イシミカワ	2・4

ヤエムグラ	2・3
アキノウナギツカミ	1・2
セリ科	+
ハンゲショウ	+
イヌスギナ	+
ブタクサ	+
木本芽生え	+

5月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：6名

新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、千野安以、増尾隆

5月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：75名 天気：晴

カワウ ダイサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ コチドリ イソシギ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 4月に引き続いて参加者多数である。初夏の鳥をテーマに探鳥。オオヨシキリ、セッカ、コチドリ。綺麗なオスのキジを緑の中でじっくり堪能するが、カッコウは声のみで残念だった。見沼田んぼの風と真っ青な空と緑の木々に全員が満足した探鳥会になった。

(楠見邦博)

5月26~27日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加：28名 天気：26=晴、27=晴一時雨

カイツブリ アオサギ カルガモ ミサゴ トビ ノスリ キジ キジバト カッコウ ツツドリ ホトトギス アカショウビン アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 前年、イスカが見られた大座法師池に立ち寄ったところ、

ここでは観察例の少ないミサゴを確認。ノスリも見られたが収穫は少なかった。定番のオオヨシキリを見た後、植物園に移動した。ノジコ、コサメビタキ、コムドリ、サンショウクイ等を観察する。途中、アカショウビンが見られたとの情報を得たが、時間的に見る事は困難と考え、翌日に期待した。翌日も好天に恵まれ、コルリ、クロジ、キビタキが見られた。その後、アカショウビンが見られる可能性が高いと思われる場所まで移動すると、声が聞こえた。その方向に進むとアカショウビンを発見した。探鳥会での確認は十数年ぶりの事で、一同大感激！取り敢えず目的が達成できたことでリーダー各人ほっとした。(菱沼一充)

5月27日(日) 狭山市 入間川

参加：38名 天気：晴

カイツブリ カワウ ササゴイ マガモ カルガモ ホシハジロ イカルチドリ キアシシギ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ メボソムシクイ セッカ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (32種) 5月の見どころとしては、ササゴイの姿とオオヨシキリの声が聞かればいいと思っている。今回はそれに加えて渡り途中のメボソムシクイとキアシシギが出てくれた。また、冬鳥のカモ2種が残っていたため1年まとめて見られて得した感じ。(長谷部謙二)

6月3日(日) 北本市 石戸宿

参加：64名 天気：晴

カイツブリ カルガモ コジュケイ キジ キジバト ホトトギス カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス ハシブトガラス (21種) さわやかな緑の風を受けながら、林の中や湿原に野鳥を探した。この時期、葉っぱが茂りだし、目ではなかなか確認できない。耳を澄ませて、声と気配に注意を払った。この日の狙いは、ホトトギスとヒクイナ。前者はゲット！鳴きながら飛ぶ姿を視認した人も。後者は残念！夜鳴くことが多いようだ。オオヨシキリは、ほぼ

全員で赤い口の中まで観察できた。(浅見 徹)

6月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：45名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ キジ コチドリ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシブトガラス (24種) 調節池の工事が進んでアシ原の面積が激減、それでもこの季節の主役オオヨシキリは元気な姿を見せてくれた。カッコウの数が減ったのが気がかり。繁殖期で鳥の数は少なかったが、カルガモの親子も見られ、さわやかな風が吹き抜ける中、入梅前のひとときを楽しんだ。(手塚正義)

6月10日(日) 熊谷市 大麻生

天候不良のため中止。

6月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：7名

新井浩、池田泰右、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、藤掛保司、山口芳邦

6月17日(日) 坂戸市 高麗川

参加：41名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ ハヤブサ コジュケイ キジ イカルチドリ キジバト ホトトギス アマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシブトガラス (34種) 川角駅前に集合の皆さんは、スタート間もなく、梢にホトトギスが止まって鳴いている姿が見られ、車で参加の人達は、ハヤブサが城西大学の校舎の上に止まっている姿を見ていた。ツバメ、セグロセキレイの幼鳥が見られた。オオタカが、カエルを吊り下げながら上空を通過。モズはトンボを食べていた。梅雨の中休みで、暑い河川敷。城山橋上流の堰周辺の木陰で、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ等を見ながら、早めの鳥合わせをした。(藤掛保司)



●**ご注意、ただ今狩猟期間中!!**

狩猟期間は、11月15日から2月15日まで。銃口の先を十分確認しないまで発砲し、狩猟とは無関係の人が死傷する事故が、例年全国で発生しています。銃猟が行われている地域では、見通しのきかない藪の中での鳥見は避けましょう。目立つ服装で、道路など、目立つ場所にいるように。猟犬に噛み付かれる事故もあります。そもそも銃声の聞こえる地域からは鳥たちも逃げ出しているはずと考え、近寄らない方が良いでしょう。

銃声の聞こえない地域でも、わなでの負傷事故があります。足元など、周囲にも十分気を配ってください。

●**柳生会長と北海道の自然を楽しむ旅**

本部から、広報依頼がありました。

旅行企画実施：(株)JTB 関東 協力：(財)日本野鳥の会 出発日：2008年3月27日 羽田発2泊3日 募集：120名 最少催行：80名 4～5名1室1人94,000円(2名1室追加代金1人10,000円)

北海道北東部でタンチョウやオオワシなど、この季節ならではの自然を満喫する旅です。柳生会長は2日目から合流、参加者のみなさんとの懇親会も予定。

詳しくは『野鳥』誌、またはTEL：048-650-0205(JTB 関東 さいたま市第一支店 栗原・大塚・島村)まで。

●**さいたま市「見沼たんぼのホームページ」**

当支部も協力しているホームページが公開されました。「さいたま市のホームページ」TOPから、「見沼たんぼのホームページ」をクリックすれば入れます。

●**普及活動**

8月21日(火)、夏休み中の本庄市立秋平

小学校の先生方全員に、野鳥観察の基本の講習と野外観察の実際を、町田好一郎が指導しました。

10月24日(水)、本庄市中央公民館会議室で、児玉郡市の小学校の先生方代表30名に、町田好一郎が、野鳥観察の基本と身近な自然保護の方法を講習しました。

●**事務局の予定**

- 12月1日(土) 編集部・普及部会議。
- 12月2日(日) 研究部会議。
- 12月8日(土) 1月号校正(午後4時から)。
- 12月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 12月16日(日) 役員会(午後4時から)。

●**会員数は**

11月1日現在2,248人です。

活動報告

- 10月13日(土) 11月号校正(海老原美夫・大坂幸男・玉井正晴・藤掛保司・山田義郎)。
- 10月21日(日) 役員会(司会：田邊八州雄、各部の報告・密猟問題シンポジウムへの出席・その他)。
- 10月22日(月)「支部報だけの会員」に向けて11月号を発送(倉林宗太郎)。
- 10月26日(金)本部新事務所お披露目会と懇親会に出席(藤掛保司・海老原美夫)。

編集後記

先月号、石光さんの「サンズイのトリと鳥」はおもしろかった。鶴が圧倒的だったとはねえ。岐阜の「鶴舞酒」なんて愉快だなあ。ところで国内の鳥はもう見飽きてしまったという左党の鳥見人さんたち、更に120種の鳥の出現で、いざ新たな挑戦なんて考えていませんか。でもくれぐれも急がずゆっくりと。それも一升瓶でなく小さな瓶でね。急ぎ過ぎてアル中になっても、編集部では一切責任を負いませんよ。(山口芳邦)

しらこぼと 2007年12月号(第284号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社